





























0113 機械器具製造業			1			3		2	2		2		4	3	2	2		2	1	2	1		27
011401 重電機製造業					1																		1
011402 軽電機製造業																							
011403 電子機器用・通信機器用部品製造業			2		1	1					1				2	1		1					9
011409 その他の電気機械器																							
						1			1									1				1	5



用機械 等製造 業																								
0115 輸送用 機械等 製造業			2				2			1	1	1		1				7	1	1		17		
011601 電気業			3		1		2	3		2	1		1		3	2	1	2	2		4	3	2	32
011602 ガス業								1					1	1									1	4
011603 水道業					1		1				1	1					1							5
011609 その他 の電 気・ガ ス・水 道業																								
0116 電気・			3		2		3	4		2	2	1	1	1	4	2	2	2	2		4	3	3	41





その他の 土石 採取業			1		1			1	1	2	1		1	1						1		1	12	
0202 土石採 取業			20		19		14	18	12	10	11	10	13	10	9	13	14	3	10	3	8	13	5	215
020301 金属鉱 業			1		2						1	1											5	
020302 石油等 鉱業																								
020309 その他 の鉱業 －その 他					1		1		1					1							1		5	
0203 その他 の鉱業			1		3		1		1	1	1			1								1	10	
02 鉱業			26		23		15	19	12	12	12	12	13	11	10	13	14	3	10	5	8	14	5	237









の建設業－その他			17		15		19	19	19	15	10	16	15	25	18	20	27	17	20	23	21	25	23	364
0303 その他の建設業			27		23		25	25	28	25	18	26	25	31	24	31	38	25	33	29	32	37	38	540
03 建設業			629		527		468	452	397	367	295	318	300	338	345	301	292	260	244	259	251	275	280	6,598
040101 鉄道・軌道業			3		2		2	4	4	4	2	2	7	4	8	2	2	2	4		4	1	5	62
040102 水運業						1		2						2	1		2	1						9
040103 航空業			1		1		1	2					2		1			1		1	1		1	12
0401 鉄道・軌道・水運・航空業			4		3		4	6	6	4	2	2	9	4	11	3	2	5	5	1	5	1	6	83



040302 特定貨物自動車運送業			3		3			1	4	1	1	2	2		1	1	2	1				3	25	
040303 貨物軽自動車運送業																								
040309 その他の道路貨物運送業			2		2		1		2	2	2	2			1	1	3	1		1			20	
0403 道路貨物運送業			37		25		19	14	24	31	18	17	20	11	19	16	20	19	14	27	18	19	12	380
040409 その他の運輸																								
										1			1	2				1		1			6	







各種商品卸売業			2		3		2	1	1									1	1				11	
080102 家具・ 建具・ じゅう 器等卸 売業																								
080109 その他 の卸売 業			2		1		8	3	4	2	2	3	5	4	1	6	1	5	3	4	5	2	2	63
0801 卸売業			4		4		10	4	5	2	2	3	5	4	1	6	1	5	4	5	5	2	2	74
080201 各種商 品小売 業			9		2		6	1	1	2	3		2	1				3				1	1	32
080202 自動車			1						1		1		1		1			1						7





業・商品取引業																								
090103 保険業			2		2		1	2	2		1		1			4		1		4		1	21	
090109 その他の金融業			1					1															2	
0901 金融業			3		2		1	3	2		1	1	1		1	4		1	1	4	1	1	27	
090201 旅行業			1					2							1		1	1			1	2	9	
090209 その他の広告・あっせん業			2		1			1	1			1	2	4		1		3	1	1		1	19	
0902 広告・			3		1			3	1			1	2	4		2		1	4	1	1	1	3	28

あっせ ん業																								
09 金 融・広 告業			6		3		1	6	3		1	2	3	4	1	2	4	1	5	2	5	2	4	55
100101 映画製 作・配 給業					2			1	1	1	1		1			1		1				1		10
100102 映画館																								
100109 その他 の映 画・演 劇業			1								1	1				2	2					1		8
1001 映画・ 演劇業			1		2			1	1	1	2	1	1			2	3		1			1	1	18
10 映 画・演			1		2			1	1	1	2	1	1			2	3		1			1	1	18

劇業																								
110101 通信業			1		1		13	9	6	12	7	5	6	6	5	4	3	4	5	5	4	7	1	104
1101 通信業			1		1		13	9	6	12	7	5	6	6	5	4	3	4	5	5	4	7	1	104
11 通信業			1		1		13	9	6	12	7	5	6	6	5	4	3	4	5	5	4	7	1	104
120101 自動車 教習所			1		1						1	1	1							1				6
120102 ソフト ウェア 業																								
120109 その他 の教育 研究業			32		22		17	25	26	16	20	22	21	20	16	23	16	13	18	7	10	20	18	362
1201 教育・ 研究業			33		23		17	25	26	16	21	23	22	20	16	23	16	13	18	8	10	20	18	368





140209 その他の飲食店															1		1			2				4
1402 飲食店			7		2		2	2	3	2	4	4	1	1	3		2	2		4	2	1	1	43
140301 ゴルフ場			172		207		123	134	138	146	148	150	140	130	110	86	82	79	96	50	75	65	73	2,204
140302 公園・遊園地			2		2		5	2	5	1	4		6	6	5	3	3	8	3	3	3	4	4	69
140309 その他の接客 娯楽業 －その他			3		7		17	10	6	10	5	4	18	13	10	7	9	5	8	4	10	8	8	162
1403 その他の接客			177		216		145	146	149	157	157	154	164	149	125	96	94	92	107	57	88	77	85	2,435

































0203 その他の の鉱業		1																					1	
02 鉱業	7	5	5	5	2	2	4	2		1	1		1	1		2			1	1	2	1	43	
030101 水力 発電所等建 設工事業		1			1					1													3	
030102 トン ネル建設工 事業	3	4	2	4	1		1		1		2	1			2		1	2	1		1	1	1	28
030103 地下 鉄建設工事 業																								
030104 鉄道 軌道建設工 事業			1																		1		2	
030105 橋梁 建設工事業		3						1									1		1				2	8
030106 道路 建設工事業	11	14	11	10	6	7	8	7	5	6	2	4	4	3	11	5	2	5	2	2	1	2	2	130
030107 河川 土木工事業	5	1	1			4			1	3	1	2				1		1	1	1	1		23	

030108 砂防 工事業	4	4	3	6	3	3	1	1	6	1	5		3	1	3	1	1	2		2	1			51
030109 土地 整理土木工 事業	2	3			2	3	6	1	3			1			1				3		2	2		29
030110 上下 水道工事業	19	6	10	5	11	5		3	8	6	4	3	1	5	4	3	3	1	2	2	5	3	3	112
030111 港湾 海岸工事業																								
030199 その 他の土木工 事業	12	6	13	14	14	11	5	7	5	7	7	4	7	5	5	6	2	3	5	5	6	2	4	155
0301 土木工 事業	56	42	41	39	38	33	21	20	29	24	21	15	15	14	26	16	10	14	15	12	17	11	12	541
030201 鉄 骨・鉄筋コ ンクリート 造家屋建築 工事業	1		2	3		3		3	2	1	1		2	1		1	2				1	1	3	27
030202 木造 家屋建築工							1	1			1		1				1	1						6







貨物取扱業																								
0501 陸上貨物取扱業																								
050201 一般港湾運送業																								
050202 港湾荷役業																								
050209 その他の港湾運送業																								
0502 港湾運送業																								
05 貨物取扱業																								
060101 農業			1				2			1				1							1		6	
0601 農業			1				2			1				1							1		6	
060201 木材伐出業	4	3	2	2	5	1	1		3	2	3	4	3	3	4	1	3	5	1	1	1	2	2	56
060209 その他の林業	1	2	3	1	3	2	1	3	2	1	3	3		1	2		1			2		1	1	33

















170101 派遣業																								
1701 派遣業																								
170201 警備業		1						1			1			1	1		1	1	1					8
170202 情報処理サービス業																								
170209 その他			5		2	1	1	3	1		2	1	1		1	1	4		1	2		2	1	29
1702 その他の事業		1	5		2	1	1	4	1		3	1	1	1	2	1	5	1	2	2		2	1	37
17 その他の事業		1	5		2	1	1	4	1		3	1	1	1	2	1	5	1	2	2		2	1	37
0 全産業	77	59	64	56	57	49	32	39	40	32	37	26	28	25	37	25	24	24	19	24	25	22	21	842

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm> (MHLW, Japan)

地山、岩石を起因物（小）とする死亡災害事例（2012-2020年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コード	労働 者規 模
2012	7	11 ～ 12	法面からの落石等を防止するため、親綱にロリップを掛けて法面上方から下方に向かって保護ネットと固定用ワイヤーを結束する作業を行っていた際、親綱が短く法尻から約15mの高さの位置で途切れていた状況のまま作業を行ったところ、墜落した。	30199	1	30～ 49
2012	3	14 ～ 15	集材装置の架線の張り替え作業中、法面の立木の脇に束ねて置いていたワイヤーを解き、滑車を持って移動していたところ、雪で足を滑らせて作業道に滑落し、死亡した。なお、被災者が滑落した個所（直高10m以上）は傾斜角が約35度であった。また、被災当日、被災者が移動していた場所には雪が積もっていた。	60201	1	1～9
2012	7	13 ～ 14	安山岩の採石場において、ベンチ部で発破で掘削した岩石をドラグ・ショベルで下に落としていた被災者は、ドラグ・ショベルとともに法肩から約100m下に転落した。	20201	1	10～ 29
2012	6	10 ～ 11	伐倒木の搬送作業にて、被災者は機械集材装置の先柱（上部）側にて伐倒木の荷掛け作業を行っていたところ、作業場所下部の沢に転落した。なお、滑落した距離は約20mであった。	60201	1	1～9
2012	6	11 ～ 12	落石監視員として監視業務を行っていた被災者は、街道直下を流れる川へ滑落し、救急搬送先の病院で死亡した。	170201	1	30～ 49
		13				

2012	3	～ 14	下水管及び汚水管の布設のため、幅が約2m、深さ約3mの溝状に重機を用いて掘削し、その後、被災者が床づけ作業のために掘削底に立ち入ったところ、側面が崩落し、胸部圧迫により死亡した。	30110	5	10～ 29
2012	2	～ 11	下水道管取替工事において、バックホーにて市道を開削工事中、約3m掘り下げた際、被災者は溝内に降り、下水管の状態確認作業を行っていたところ、掘削側面が崩落し、脳挫傷にて死亡した。	30110	5	1～9
2012	10	～ 19	ダムへの乗り入れ道路である県道の打換工事現場において、被災者を含む作業員3名が、車両の退避場所で、自動車のヘッドライトで照らしながら、約10m四方のブルーシートを折りたたんで片付ける作業を行っていたところ、被災者は退避場所の端の崖から、約60m下の沢に転落した。	30106	1	10～ 29
2012	6	～ 12	重機（ドラグ・ショベル）を積載したトレーラーで、山中の公道を走行中、迂回路から市道へ戻る合流地点で切り返しをしている際、道路脇斜面から落石があり、運転席部分の屋根を直撃し被災した。直撃した落石は、約60cm×約40cm×約30cmである。被災者は、レスキュー隊により救出されたが、救急搬送前に死亡が確認された。	30106	5	30～ 49
2012	9	～ 10	被災者は携帯電話のアンテナの保守点検作業を行うため、一人で山中の登山道をアンテナ塔へ向かって歩いていたところ、当該登山道から最大斜度約35度の箇所を約1m滑落した。これにより背負っていた機材を自力では引き上げられなくなったため、携帯電話を使って事業主に応援を頼んだが、事業主の手配により現場に到着した同僚により、滑落した箇所より15mほど離れた場所で、膝をつきうつ伏せで死亡している被災者が発見された。	110101	1	10～ 29
2012	1	～ 14	被災者は林道沿いの電線に接触する等支障がある立木を単独で伐採していた。被災者の叫び声が聞こえ、現場監督らが急行してみたところ、被災者は斜面を約30m滑落していた。なお、安全带等墜落防止の措置はなかった。	30309	1	1～9
2012	1	～ 17	間伐作業を行っていた被災者が墜落したもの。災害発生日、元請労働者ら6名で作業を行っていたが、作業終了時刻を過ぎても被災者が集合場所へ戻って来なかった。被災者は翌朝、間伐現場の崖下（約80m）で死亡しているのが発見された。	60209	1	1～9

2012	3	13 ～ 14	被災者は防火水槽を道路下に設置する工事において、深さ約4mに重機で掘った穴に土止めを設置しようとしていた。穴の底に降りて作業を開始したところ、側面の土砂が崩れ被災した。	30199	5	10～ 29
2012	5	13 ～ 14	被災者らは、午前中にドラグ・ショベルでの掘削を終え、午後から溝の中に入り、掘削した溝の底をならす作業を終了し、樹脂製排水管を配置するため溝より出ようとしていたところ、溝の中央あたりで土砂が崩れ生き埋めとなった。なお、掘削の全長は約16m、幅約0.55m、深さは深いところで約2.6m、浅いところでは0.45mであった。	140301	5	100 ～ 299
2012	4	10 ～ 11	高さ約8mの斜面上にある庭園において、有害鳥獣用防護柵の設置及び庭園の整地を被災者を含めた労働者3名で行っていた。被災者は、斜面上において前日までに刈り取られた草を収集していたところ、斜面上より約8m下の地面に墜落した。	30199	1	1～9
2012	2	10 ～ 11	国道維持管理工事で道路沿い崖の落石防護ネット（金網）を補修するため、高さ約11mの法面上で落石処理をしていた被災者が墜落し、死亡した。	30199	1	1～9
2012	5	8 ～ 9	法面工事に伴う法面上部の立木伐採の際、当該立木がかかり木となったため、杉の小径木を用い「てこの原理」の要領で外していたところ、支点になっていた箇所を外れた反動で、被災者は約40m下の道路上へ転落した。	30106	1	1～9
2012	6	10 ～ 11	新設道路の法面に落石防止用の網を設置する工事で、アンカー材（鋼製、152cm、8.8kg）を施工場所に持って行くため法面を移動中、法肩上部から国道に転落した。	30199	1	10～ 29
2012	6	13 ～ 14	被災者は下水管を埋設する作業において、ドラグ・ショベルでアスファルト舗装の道路を深さ2.1m掘削した床の長さを計測するため掘削した溝に入り、計測後に溝から出ようとした際、掘削した溝の片側の法面が崩落して頭部に崩壊した土砂等が当たり、脳挫傷により死亡した。	30110	5	10～ 29

2012	5	9 ～ 10	住宅市街地総合整備事業におけるよう壁築造工事において、車両系建設機械で床掘した場所に被災者を入れ、スコップを使用して掘削面を調整していたところ、L字型に隣接する法面（高さ約5m）が崩壊し、被災者が生き埋めとなった。直ちに救助し、救急搬送したが、搬送先の病院で頭蓋骨骨折、脳挫傷のため死亡した。	30110	5	10～ 29
2012	3	11 ～ 12	汚水管の布設のため、ドラグ・ショベルにて深さ2m以上の明かり掘削を行った後、被災者が掘削溝内に入り排水ポンプ設置のため掘削溝底部を10cm程スコップで掘っていたところ、側壁が崩壊し被災した。	30110	5	10～ 29
2012	10	14 ～ 15	45度から50度の傾斜地で、ヒノキの幹に鹿被害防止用の枝条被覆をする作業をしていた際、足を滑らせて傾斜地に沿って墜落したもの。墜落の高さは垂直にして約30mであった。	60201	1	50～ 99
2012	10	9 ～ 10	砂防ダム建設工事において、法面途中の道の際にあった岩をブレイカー（車両系建設機械の作業装置を交換して、ブレイカーとしたもの）で割っていたところ、車両もろもと約30m下に転落し、車両の下敷きになり死亡した。	30108	1	1～9
2012	7	5 ～ 6	豪雨の中、事業場の施設管理業務を担当している被災者は、上司からの緊急出勤命令により、自宅から事業場へ乗用車で向かう途上、国道で土石流に巻き込まれて溺死した。	130101	5	100 ～ 299
2012	1	10 ～ 11	マンション新築工事現場において、基礎工事における単管と木製足場板で構成された防護壁を設置する作業を行う際、掘削溝内で作業員2名が防護壁に足場板を重ねる作業を行っていたところ、隣接駐車場敷地内にあるフェンスの基礎コンクリート部及び基礎コンクリート下部の土砂が長さ約7.4m、幅約80cm、高さ1.66mにわたり崩壊し、作業員2名が土砂等に生き埋めになり1名が死亡、1名が負傷した。	30201	5	10～ 29
		10	下水道の配管敷設工事において、被災者は深さ1.5m～1.9mの溝の中で、既設の水道管の位置の確認のため剣先スコップを使用して掘削作業中に、掘削法面が崩壊し、土砂に押され、姿勢を崩した時に被災者が持っていたスコップ			

2013	5	～ 11	の柄が被災者の腹部にあたった。被災者は、立った姿勢で膝の高さまで埋まり、救助され病院へ搬送されたが、内臓の出血により死亡した。	30110	5	1～9
2013	10	～ 12	11 雑木の伐倒作業に従事していた被災者は、約40度のこう配の斜面を滑落した。被災者は斜面を滑り、作業道の端周辺に墜落した後、さらに14m転落し、岩場に頭部を激突した。	60209	1	1～9
2013	5	～ 14	13 道路舗装工事現場において、被災者の姿が見当たらなかったため、現場周辺を捜索したところ、現場付近の崖下約20mの海に転落しているところを発見された。尚、作業場所には仮設トイレ等がなく、被災者がトイレットペーパーを持って転落箇所方向に移動しているところも目撃されていることから、排泄目的に現場から死角になる崖上に行ったものと推測される。	170201	1	10～ 29
2013	11	～ 16	15 道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	～ 16	15 道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	～ 16	15 道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	～ 16	15 道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299

2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	9	13	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	9	13	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。	30106	5	10～ 29
2013	6	10	排水管設置のため地下排水溝の掘削砕石敷設作業中、掘削完了箇所に基礎砕石を投入するため、作業箇所にいた作業員が退避しようとしたところ、近接する切土法面が崩落し、被災者が土砂に巻き込まれた。	30106	5	10～ 29
2013	1	10	マンション建設現場において、電気工事の下請事業者（3次下請代表）が、地下に電線を埋設するため、地面からの深さ1.5m幅1mの溝を重機にて掘削し、その溝内に自社の労働者を入らせ作業をさせていたところ、溝の側面が崩壊し、当該労働者が生き埋めになった。	30301	5	1～9
2013	4	11	建物1階の床下部分に水がたまり、エレベーターピットに漏れ出ていたため、隣接するピットであったであろう箇所に穴をあけたところ水が噴出した。そこで、排水するポンプを設置し排水したが、ピットであったであろう箇所には硬い岩のような土砂が堆積しており、漏れ出ている箇所の確認ができなかった。おのため、電動ピックではつりながら掘り進めていたところ、土砂が崩落し下敷きとなった。	30309	5	10～ 29
2013	5	10	山地測量現場において、山林内の斜面で測量用具であるプリズムポールを保持する作業を行っていたところ、足下の地	170209	1	1～9

		11	山（勾配50～54度）が崩れ、垂直高さ約27メートルの箇所から転落した。			
2013	6	15 ～ 16	国有林内にある架空電線下の平均勾配約50度の斜面において、刈払機を使用して、成長すると電線の支障となってしまう幼齢木（径5cm未満）の刈払い作業中、作業が終了したことから、翌日以降、引き続き作業ができるよう、刈払機の刃を取り外して刈払機本体を地面に置いて斜面を移動したところ、何らかの事由によりバランスを崩し、約100m下の付近まで転落した。	60209	1	1～9
2013	11	16 ～ 17	砂防堰堤工事の現場において、被災者は構築した型枠の中で確認の作業をしていたところ、脇の地山（高さ約10メートルの箇所）が幅約5メートルにわたって崩れ、崩落した土砂と岩石の下敷きとなった。	30108	5	10～ 29
2013	11	11 ～ 12	法面で親綱・ロリップを使用し、鍬を用いての人力による法面整形作業を行っていたところ、上方から落ちてきた10cm角の石が被災者の胸を直撃し、救急車搬送されたが死亡が確認された。	30108	4	10～ 29
2013	8	11 ～ 12	林道の法面で、鉄筋を結束する作業に従事していた被災者は、仰向けに転落し死亡した。尚、作業時は安全帯をロリップに接続していたが、被災時はロリップから安全帯が外れていた。また、被災者は墜落時保護用のヘルメットを着用し、あご紐もしていたが、転落途中で脱げたものと推測される。	30108	1	1～9
2013	1	16 ～ 17	用水管付替工事現場において、縦3.4m、横2m、深さ約3mの大きさに掘削された穴の中で、1次下請業者の労働者が配管の付替え工事を行っていたところ、縦方向面の壁が崩壊し被災者に激突した。	30110	5	1～9
2013	2	22 ～ 23	トンネル上り線の出口付近にて、3名で支保工の設置のための位置決め作業を行っていたところ、坑口周囲の上部及横部の地山が滑るように崩落し、付近で作業していた3名を巻き込んだ。尚、坑口の周囲の地山は、土止め措置としてコンクリートが吹き付けられていた。	30102	5	10～ 29

2013	9	10 ～ 11	法面の吹きつけ作業を終了した現場において、吹きつけ作業で使用した親綱の撤去後、法面上部から林道に歩いて戻る途中、誤って約11メートル下の林道に墜落した。	30106	1	10～ 29
2013	4	12 ～ 13	建設中の自動車専用道のトンネル工事現場で、切羽周辺が崩落し、作業をしていた労働者1名が土砂に埋まった。	30102	5	30～ 49
2013	12	14 ～ 15	森林伐採地で、傾斜角約30度乃至35度の作業場所で裾枝打作業（打高約1.5メートル）を行っていた被災者は、足を滑らせ、植栽区域外の無立木地を約70乃至80メートル墜落し、後頭部を強く打ち、死亡した。尚、保護帽は着用していたが、墜落時に何らかの原因で外れ、墜落途中の約40メートル下の立木に引っかかって発見された。	60201	1	30～ 49
2013	8	13 ～ 14	法面にラスを張る作業を行うにあたり、被災者が垂直親綱を設置し、法面を登っていたところ、法面上部の岩石が崩落したことにより、崩落に巻き込まれ、被災者は法面から落下し、最大直径約4メートルの岩石の下敷きになった。	30199	5	1～9
2013	11	10 ～ 11	伐木・造材・集材・木材輸送作業の現場において、作業道を延伸するため、被災者がドラグショベルに搭乗し、作業道終点から斜面を掘削していたところ、作業道の路肩が崩壊しており、ドラグ・ショベルが作業道より30m下方の谷に転落し、被災者がドラグ・ショベルの傍に倒れているのを発見された。	30199	1	10～ 29
2013	10	12 ～ 13	被災者は、山林内の松茸採取の作業を行っていたが、松茸採取を終えたため作業現場を離れようとしたところ、傾斜角約40度の山の斜面から約15メートル下に転落した。	60101	1	1～9
2013	5	14 ～ 15	民家の造成工事において、民家の裏山部分を地面から高さ約4m掘削（勾配約80度）後、被災者は、この掘削した地山と民家の間に水路を設けるため型枠を組み丁張作業中、この掘削した地山が崩壊した。崩壊した土砂が被災者の下半身まで埋まり、転倒した際、ドラグショベルの排土板で頭部を強打し死亡した。	30109	5	1～9

2013	4	14 ～ 15	一般県道の道路改良工事現場において、車両系建設機械のアタッチメントを交換したブレーカーを用いて、のり面の岩石の破碎作業を行っていた際、破碎した岩石を均すため当該車両系建設機械を後退させたところ、当該機械の履帯（クローラー部）が滑り、バランスを崩し、当該機械とともに作業道から転落した。	30106	1	1～9
2013	10	11 ～ 12	市道改良工事現場で山側法面の掘削作業中、突出した支障岩を破碎薬を用いて破碎する際、バックホウを用いて飛散防止のため布製シートを岩に設置しようとしたところ、対象の岩の横でバックホウの運転手に指示を行っていた被災者に石（約50センチ四方）が転がってきて、石と一緒に約13メートル下の市道路面に転落した。	30106	1	10～ 29
2013	11	13 ～ 14	皆伐により伐採する山林現場において、被災者は伐倒木にワイヤーを掛け、集材機による集材作業に従事していた際、傾斜45度の斜面を34m転落した。	60201	1	1～9
2013	8	17 ～ 18	宅地造成工事現場において、1名がスコップ、もう1名が手持ち式はつり機を持って鋼矢板のそばで手掘り作業を行っていたところ、鋼矢板が傾き出して土砂が崩壊し、2名が生き埋めになった。手持ち式はつり機で作業を行っていた被災者は、その後救出されたが、死亡が確認された。	30199	5	1～9
2013	10	14 ～ 15	農業用水路の築造工事において、被災者は配管を埋設するために掘削した溝（深さ2m90cm）の内部で配管の接続作業をしていたところ、掘削溝の壁面の縁石が土砂と共に崩落、生き埋めとなった。	30110	5	1～9
2013	12	15 ～ 16	水道管敷設工事で、道路の埋め戻しのため溝を跨ぐ形でドラグショベルを後進させていたところ、歩道側の路肩が崩れ、横転したドラグショベルの運転席と歩道の縁石の間にはさまれた。	30110	1	1～9
2013	6	14 ～ 15	杉の立木の伐倒作業において受け口切りを行っていたところ、立木の上方にあった岩がはがれ落ち、被災者後頭部を直撃した。被災者は、受け口切りをしていたチェーンソーに覆い被さるように倒れた際、当該チェーンソーで左肩から右脇腹にかけて切り、死亡した。	60201	4	30～ 49

2013	9	9	国有林の治山工事において、被災者は平均角度53°の法面においてモルタル吹付ノズルの修正等のモルタル吹付補助を行っている際、ロリップを親綱に付けたままベルトのD環からロリップを外し、幅20～30センチメートルの小段を歩いていたら約70m下に転落した。	30199	1	1～9
2013	1	9	機械集材装置による集材作業において、被災者は先山で荷掛作業を行っていた。被災者からの合図がなくなったので、同僚が先山に行って被災者の様子を見てみると、保護帽を脱いで根株の下に腰掛けていた被災者を発見した。同僚は、被災者の言動がおかしいので病院に搬送したところ、脳挫傷により死亡した。	60201	2	1～9
2013	4	12	産業残土等の土捨て場において、労働者ら3名が、沈砂池へ水を流す排水管（1本：長さ5m×径0.8mの塩化ビニール管）を埋設し連結する作業を行っていたところ、隣接する盛土が崩壊し、2名（労働者1名、会社役員1名）が生き埋めとなり死亡した。尚、現場は、捨土が盛られた個所を管理設のため、約1m程度の深さにドラグショベルで床掘りした場所で、周囲には捨土と掘削土が山状に盛ってあった。	30199	5	1～9
2014	12	12	溝掘削内にて、被災者が立ち入ったところ、溝側部の地山が崩壊し、上部にあったアスファルト塊及び土砂が被災者の腹部に落下した。	30110	5	1～9
2014	11	11	水漏れ箇所の点検のための掘削作業中、被災者が穴の中に入り確認作業を行っていたところ、土砂が崩れた。	30199	5	1～9
2014	11	0	採石場内の作業道拡幅作業中、法面に発破を装填するための穴をクローラドリルで水平方向に掘削していたところ、法面の岩盤が崩壊し、クローラドリルが崩壊した岩盤及びその上方の土砂の下敷きとなった。	20201	5	1～9
2014	10	12	法面に新しくモルタルを吹き付ける作業中、被災者は、作業に必要な親綱を設置する作業のため、吹き付け箇所上部の立木付近に親綱を置き、下へ降り始めたところ、足を滑らせ、斜面上を滑り落ち、道路に墜落した。	30106	1	1～9

		13				
2014	10	9 ～ 10	排水管布設用の溝の掘削作業中、床付け面の深さを測定するため被災者が箱尺を持ち、溝内に立ち入ったところ、片側の地山が崩壊した。尚、土留め支保工用の資材が現場脇に用意されていたが、使用していなかった。	30203	5	1～9
2014	10	10 ～ 11	石落とし作業を行った際、林道にて作業に使用したロープ等の片付け作業を行っていたところ、高さ10メートル、幅8メートルの範囲で地山表層が崩落し、直径約1メートルの石が被災者の半身に落下し、はさまれ、脳挫傷及び心臓破裂により死亡した。	30199	5	1～9
2014	10	10 ～ 11	被災者は、本殿建て替え中、仮の本殿として使用していた仮本堂の廊下に入ったところ、仮本堂の裏の斜面が崩壊し、崩れた土砂により仮本堂の建屋が押しつぶされ、建物等の下敷きになり、死亡した。	170209	5	10～ 29
2014	10	11 ～ 12	土場にて、土を油圧ショベルで掘削し、ダンプに積み込む作業中、背部の地山が崩壊し、油圧ショベルごと埋まり、窒息死した。	30199	5	10～ 29
2014	9	9 ～ 10	作業場にて、コンクリートミキサー車から生コンクリートをホッパーに移す作業をしていたところ、岩石が飛来し、被災者の身体にあたり、死亡した。	40301	4	10～ 29
2014	9	14 ～ 15	林道改良工事にて、沢の水を通すために埋まっていたヒューム管交換のため、掘削し、ヒューム管設置後に吐き出し口となる付近に設置する布団籠に石を詰める作業を複数名で行っていたところ、被災者が掛矢を持ち、掘削箇所に進入したところ、法面上部の土砂が崩壊し、埋まった。	30106	5	10～ 29
2014	8	9 ～	ロッククライミング工法により法面上の浮石除去中、岩石が、法面上で無線操作を行っていた被災者の背中にあたり、	30108	4	10～

		10	被災者は法面を約18m墜落した。			29
2014	7	9 ～ 10	地中下水管設置の際、溝を測定しようと、被災者は溝の内部に入り、測定作業を行っていたところ、掘削溝の側壁の片側が崩壊し、土砂に埋もれた。	30110	5	1～9
2014	7	15 ～ 16	法面整形する作業中、道路上にて、登坂の準備中、法面上方で落石崩壊が発生し、被災者に当たった。	30106	5	10～ 29
2014	7	16 ～ 17	掘削用機械で河床を所定の深さに掘削する作業中、河床まで深さ約4メートルある岸壁（法面）が幅約11メートルにわたり崩壊。河床にて、掘削用機械への合図を送っていた被災者が、倒れた鋼板の下敷きとなった。	30107	5	10～ 29
2014	4	15 ～ 16	電柱の工事終了後、写真撮影を行っていた際、斜面の下方で倒れている被災者が発見された。	30301	1	1～9
2014	4	11 ～ 12	掘削床にて、雨水管を掘削していたところ、掘削面の一部が崩壊し、崩壊した土砂が被災者の胸部付近に激突。腰部付近まで土砂に埋まり、肺挫傷により死亡した。	30201	5	10～ 29
2014	4	9 ～ 10	積雪による被害木の伐採作業中、足を滑らせ、斜面を滑落。被災者は、約40m斜面を転げ落ち、斜面下端にある林道へ転落した。	60201	1	1～9
		11	林道地中の配水管の堆積砂利をかき出す作業現場にて、管内部で砂利をかき出していた際、前方より滞留していた水が			

2014	4	～ 12	流れ出し、管の外部で補助作業を行っていた被災者が、土砂とともに埋まっているのが発見された。	30106	1	1～9
2014	3	～ 15	14 基礎杭周囲を掘削し、基礎の均しコンクリートを電動ハンマーで小割りしようとしていたところ、均しコンクリートを 支えていた土砂が、電動ハンマーの振動で崩壊し、均しコンクリート及びその上に堆積していた土砂が被災者に崩れ落 ち、窒息死した。	30199	5	1～9
2014	2	～ 14	13 下水管敷設工事にて、汚水管設置位置の掘削作業を行っていた被災者は、掘削溝内で支障となる配管の有無を確認作業 中、掘削溝東側の掘削壁面が崩落し、支えを失ったアスファルト塊が落下し、被災者の頭部に激突し、死亡した。	30110	5	10～ 29
2014	2	～ 15	14 照明設備工事にて、被災者は深さ2.3メートル掘削坑内で照明柱基礎コンクリートの型枠パイプ撤去作業中、付近で 法面が土砂崩壊したため、別の作業員がドラグ・ショベルにて土砂撤去作業を行っていたところ、同箇所法面土砂が 更に崩壊し、被災者が生き埋めになった。	30203	5	1～9
2014	2	～ 15	14 階段採掘法による採石現場で、3段目の階段で発破した岩石をドラグ・ショベル（機体重量25t）により一番下まで 落とす作業中、3段目上部の岩石が崩落し、その崩落により被災者はドラグ・ショベルと共に43.7mの一番下まで 転落。運転席から投げ出され、全身挫滅で死亡した。	20201	5	10～ 29
2014	1	～ 15	14 農業用配管の移設作業のため、縦5メートル、横1.3メートル、深さ1.9メートルにわたり掘削した後、当該掘削 箇所内で配管の取付作業を行っていたところ、側壁が土塊として崩れ落ち、被災者を直撃した。	30106	5	10～ 29
2014	1	～ 10	9 斜面の落石防止網設置工事にて、斜面下部からウインチ操作で送られてくる単管パイプを受け取るため、一名の作業 者が斜面上部の林道からさらに高さ約5mを登った場所に位置し、声を掛け合いながら単管パイプを受け取り、林道へ下 ろそうとしていた際、被災者は斜面から滑落し、約5m下の林道へ墜落した。	30199	1	1～9
			法面の工事現場にて、被災者を含めて作業員4名でアンカーの引き抜き試験の作業を行っていた。試験機が故障したた			

2014	1	12 ～ 13	め作業を中断し、被災者に先立ち2名の作業員が親綱を伝えて下山し、もう1名が山道から下山したが、時間が経っても被災者が下山してこないことを作業員が不審に思い捜索を行ったところ、通路状になっている斜面から約10m下の立木に引っかかっている被災者が発見された。	30199	1	1～9
2015	10	13 ～ 14	現場内の山林で、ドラグ・ショベルを使用し作業道の造成及び整地作業を行っていた作業中のドラグ・ショベルが見当たらなくなったため、伐採等の作業を行っていた同僚が捜索していたところ、作業道から約15m下の崖に転落しているドラグ・ショベルを発見した。ドラグ・ショベルは運転席を下にした状態で立木に引っかかり停止していたが、支えていた立木が折れさらに50mほど転落した。	60201	1	10～ 29
2015	4	19 ～ 20	トンネル切羽において、火薬の装填作業を行っていたところ、切羽天端部の肌落ちがあり、装填した火薬（雷管）が2つ落下した。すぐに同火薬を回収するため職長及び被災者が切羽に近づいたところ、岩盤が大規模に崩落し、被災者は落下してきた約3トンの岩の下敷きとなった。岩を除去し、救急車にて搬送されたが、搬送先にて死亡が確認された。	30102	5	10～ 29
2015	11	0 ～ 1	被災者は電柱の新設後、路面から高さ2.12メートルの擁壁上の斜面に生えた雑木の伐採作業を行っていたところ、斜面から路面上に滑り落ち頸椎骨折、急性大動脈解離等の負傷により療養中であったが、平成27年11月21日に死亡したものの。	30301	1	1～9
2015	7	10 ～ 11	下水管敷設のため、深さ1.8m、幅1.2mの溝をドラグショベルにより掘削中、被災者が溝の中に入りまもなくして被災者の背中側が深さ1.4m、幅0.5m、長さ2mに亘って崩れ、腰ぐらゐまで土砂に埋まった。	30199	5	30～ 49
2015	2	13 ～ 14	工場本体の新築工事の外構工事として、敷地内に貯水槽（大きさ6.6m×3.6m深さ3.3m）を設置するためドラグ・ショベルで、大きさ11m×8m深さ約3.6mの総堀りをしていた。その際、突然ピット側面の土砂が崩壊したため、ピット底部に入り、ならし作業をしていた被災者が生き埋めとなり、すぐに救出し病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。	30199	5	1～9
		0	国有林の伐採現場において被災者らが午前8時から前日の伐倒作業を行うため、現場到着後、被災者は一人で作業箇所			

2015	9	1	～	に向かう途中、斜面で足を滑らせ、胸部が立木に激突したため、被災したものの。林道から斜面を下った箇所です倒れているところを同僚に発見された。	60201	2	10～ 29	
2015	7	14	～	15	法面工のラス張り作業で、岩石にアンカーピンを打ち込むために電気ドリルでせん孔作業を行っている時に、理由は不明であるが、被災者は立木から垂れ下がっている親綱に緊結していた「ロリップ」を外したところ、勾配約45度の斜面を約50m滑落し、下方の雪崩防止柵の養生用鉄板に激突した。	30108	1	50～ 99
2015	10	9	～	10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	30110	5	1～9
2015	9	15	～	16	高速道路建設工事に伴う用地調査のため、被災者と部下の2名は、作業場所である山中に入り、各地権者の領域を目視できるようにするためのテープ貼りの作業等を行った。同作業が終了後、山頂上に置いていたリュックサックを回収するため、部下、被災者の順で山の斜面を登っていたが、部下が振り向いたところ被災者の姿がなく、山中を探したところ、中腹で仰向けで倒れていた被災者を発見した。被災者は、頸椎損傷により死亡した。	170209	1	1～9
2015	1	10	～	11	民有林において、被災者は砂防ダムの建設予定地となる箇所の測量業務に従事していた。被災者は立木の調査を行うため、斜度約45度の斜面を歩行中、足を滑らせ約7メートル下の沢まで滑落し死亡したもの。	170209	1	1～9
2015	2	16	～	17	勾配約40度の傾斜地の草薙りを終え、集合場所へ戻る際、何らかの原因により、傾斜地から転落したもの。被災者が最後に目撃されたのは、被災者が転落していた箇所から高さ約5メートル、勾配42.5度の傾斜地を降りているところであった。ロリップの設置等の墜落防止措置は講じられていなかった。	170209	1	1～9
2015	10	11	～		鉄塔点検工事において、点検を終えた鉄塔から別の鉄塔へ移動するため、被災者と他の労働者で山中を歩いていたが、	30301	1	1～9

		12	途中から被災者は道に迷い単独で山中を歩いていたところ、斜面から滑り落ち、そのまま林道に墜落して死亡した。			
2015	3	18 ～ 19	既存建物のコンクリート壁を解体後に、飛び出している鉄筋をガス溶断により切断し撤去する作業中、頭上で土砂が崩壊し、被災者に直撃し生き埋めになった。崩壊した土砂は、解体前のコンクリート壁と山留杭との間（厚さ約0.8 m）に残存していたものであり、その一部分（高さ約4 m、幅約3 m、奥行約0.8 mの範囲）が崩壊、落下したものであった。	30201	5	1～9
2015	1	11 ～ 12	民家の下水管布設工事現場において、掘削溝（幅60センチメートル、長さ6.8メートル、深さ1.5メートル）の側壁が崩壊し、溝の中にいた労働者2名が土砂に巻き込まれたもの。	30110	5	1～9
2015	4	11 ～ 12	道路拡幅工事現場において、谷側垂直壁の基礎コンクリート（階段状）の型枠組立を被災労働者が行っていたところ、当該箇所は勾配が全体として45度であり、足を滑らせた等により斜面を約5 m滑り落ちた。その際、腰に巻いていた道具袋に入っていた約20 cmのバールが被災者の腹部に突き刺さり、肝臓を損傷し出血性ショックにより死亡したものの。	30106	1	1～9
2015	5	0 ～ 1	被災者を含む労働者3名で、林地の周囲を測量していた際に、被災者は測量のために使用するけん縄（測量点間の距離を測るもの）とポール（コンパスと呼ばれる測量器具を測量点に合わせるための目印とするもの）を両手に持ち、次の測量点に移動していたところ、斜面から転落したものの。	60209	1	10～ 29
2015	3	15 ～ 16	遊歩道の手すりの改修工事において、ドラグショベルで手すりの支柱の基礎（コンクリート2次製品）を地中に埋め、余掘りの埋戻し作業を行っていたところ、その周辺の岩石等が崩壊し、ドラグショベルの周辺にいた被災者に直撃した。被災者は、崩壊した岩石とともに約5 m下の谷側に転落した。	30106	5	1～9
2015	11	15 ～	山中でのアンテナ・ケーブルの撤去回収工事において、交通誘導員である被災者が撤去した資材を山中から林道に置いてある車両まで運ぶ作業に加わったが、被災者は道に迷い、下山できる場所を探して山中を歩いていたところ、沢付近で約19 m滑落したものの。他の作業員が被災者を発見した際には、意識があり立つことができたが、救助を待っている	170201	1	50～ 99

		16	間に意識を失い、病院で死亡が確認された。			
2015	2	11 ～ 12	橋梁の下部工事の試掘作業において、深さ約3メートルの掘削内に立ち上がったところ、溝掘削西側法面が崩壊し被災者の全身が土砂に埋まった。	30105	5	50～ 99
2015	10	9 ～ 10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	30110	5	1～9
2015	4	17 ～ 18	宅地造成工事現場において、男性作業員が高さ約6メートルの法面における養生シートの手直しを行っていたところ、法面が崩壊し被災したもの。	30202	5	10～ 29
2015	2	13 ～ 14	間伐作業現場において、被災者を含め2名で作業を行っていた。2人は数百メートル離れた現場で各々作業を行い、予め決めておいた集合場所に15時50分に集合する予定であったが、被災者が集合時間を過ぎても現れないので、同僚が被災者の担当現場へ行ったところ、うつ伏せに倒れている被災者を発見した。被災者が倒れていた場所から約17m上の傾斜約40度の山腹にヘルメット、チェーンソー、腰袋が置かれていた。	60201	1	10～ 29
2015	4	10 ～ 11	被災者は、建築中の建屋北側の駐車場予定地において、污水配管埋設作業のため、掘削された幅約70cm、深さ約1.5mの箇所に入り、同配管の取付作業を行っていたところ、掘削した箇所の側面が崩落し生き埋めとなり被災したもの。	30201	5	1～9
2015	12	10 ～ 11	島において落石状況を調査していた被災者が夕方になっても駐車場所に戻らず、翌日の朝、岩山の麓の斜面に倒れているのが発見されたもの。被災者は島外に所在する事業場から2泊3日の旅程で1人で来ており、この岩山は調査対象のひとつであった。事業場は建設コンサルタント業を営んでいる。	170209	2	50～ 99

2016	12	8 ～ 9	索道で伐採木を搬出しているときに、被災者が退避場所の積雪で足を滑らせ斜面から転落し、索道でつっていた伐採木に激突した。	60201	1	1～9
2016	12	8 ～ 9	法面（斜度80度、岩）に削孔機によるアンカー孔掘削作業中の災害。1箇所の掘削を終えて次の掘削予定箇所に削孔機を移動するためにビット付ロッド（全長約2.1m、重量約28kg）を削孔機より取り外し法面に立てかけて仮置きしていたところ、当該ビット付ロッドが落下し下方にいた被災労働者の胸部に激突し、死亡した。	30106	4	1～9
2016	12	3 ～ 4	ずい道新設工事において、坑口から232mの切羽部で鋼製アーチ支保工設置にあたり、浮石や支保工設置位置等の確認（当たり取り）のため切羽部に近づいたところ、切羽左上半の側面部が肌落ちし、その下敷きになった。	30102	5	50～ 99
2016	11	16 ～ 17	被災者は傾斜約40度の間伐作業現場で伐木作業を行っていた。作業終了時刻になっても被災者が集合場所に現れなかったため、同僚2名が捜したところ、斜面上で仰向けに倒れている被災者を発見したが、搬送先の病院で骨盤骨折及び左大腿骨骨折による失血死が確認された。	60201	6	1～9
2016	10	9 ～ 10	林道改良工事において路肩の下で型枠の脱着作業を行っていたところ、路肩が崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。	30106	5	1～9
2016	10	18 ～ 19	19時30分に夜勤の労働者が現場に到着した際、被災者の姿が見えないため付近を捜索したところ、車を駐車している箇所からおおよそ9m下方のがけ下で倒れている被災者を発見した。	170201	1	10～ 29
2016	9	10 ～ 11	林道脇の法面上部の伐採作業のため、被災者が法面上部を移動していたところ、約5m（目測）の高さから道路上に墜落して死亡した。	30199	1	10～ 29

2016	9	0 ～ 1	ドラグショベルにより林道を開設する作業に従事していたところ、何らかの理由により路肩が崩壊し、ドラグショベルごと転落し死亡した。	30199	1	10～ 29
2016	9	12 ～ 13	アパート建築工事において、敷地に隣接する車道との間の斜面（高さ約3.5m）にブロック積擁壁を設置するため、斜面等の土砂をドラグショベルで掘削していたところ、掘削法面の土砂が崩落（推定4立方m）し、法面直下で補助作業に従事していた被災者が生き埋めとなった。被災者は心肺停止状態で病院へ搬送されたが、死亡した。	30202	5	1～9
2016	9	14 ～ 15	新設水道管を布設する工事において、深さ約1.45m、幅約0.9mにて掘削した箇所に入り、布設した水道管を微調整するため、管下をスコップを使って掘っていたところ、側面の土壁が幅約0.5m、長さ約1mに渡り崩れ、被災者の腰から下が埋まった。	30110	5	10～ 29
2016	9	19 ～ 20	前月の台風による大雨の影響で小規模な土砂崩れが発生した国道付近において、大雨が降り続く中、被災者が歩道に停車させた車両内から斜面の状況を監視していたところ、土砂崩れが発生し、車両ごと土砂に押し流されて海に転落した。駆け付けた救急隊員に救助されたものの、搬送先の診療所で死亡が確認された。	30199	5	10～ 29
2016	8	9 ～ 10	マンションの土間下排水管取替えのため、マンション土間下に掘った坑に被災者1人が入り作業を行っていたところ、天井（マンション土間部分）から岩のような塊（1.6m×0.75m×0.25m）が落下し、その下敷きになって死亡した。	30203	5	1～9
2016	7	15 ～ 16	道路災害復旧工事の現場で急な降雨があり、法面上に設置された排水用ビニールホース（直径約250mm）のねじれを7名で直していたところ、ねじれが解消されると同時にホース内に水が一気に流れ、被災者が当該ホースに弾き飛ばされて約5m下の地山斜面上に墜落した後、地山斜面上を約17m下まで転落した。	30106	1	10～ 29
2016	7	9 ～ 10	整備作業として、登山道の路肩の崩壊防止用の丸太を交換するために杭打ち作業をしていたところ、登山道から片足を法面に下ろしハンマーで杭を打っていた被災者が、姿勢を崩し、約50m下まで滑落し、頭部を強打したことにより死亡した。	40103	1	1000 ～ 9999

2016	3	12 ～ 13	急斜面でチェーンソーを用いた立木伐採を行っていた労働者が、作業中にバランスを崩して斜面から滑落した。	60201	1	10～ 29
2016	3	15 ～ 16	溪流の右岸の護岸工事を行っていた。労働者4名で護岸用の金属カゴ（長さ202cm、幅77cm、高さ51cm）に石材を詰める作業を行っていたところ、幅16.3m、高さ24mにわたって法面が崩壊し、労働者1名が生き埋めになった。	30107	5	1～9
2016	3	15 ～ 16	民有林内において、伐倒した広葉樹をウインチを使用して2名で作業していた時の災害。同僚が集材用ロープを持ち先山に向かい、被災者は同僚とウインチの中間でロープの送り出し作業をしていた。先端を引っ張っていた同僚がロープが急に重くなったため振り返ったところ、被災者がフラフラしておりその後、地面に倒れ斜度35度の斜面を約6m転落した。転落中に保護帽が脱げ頭部を地山に強打し9日後に脳挫傷で死亡した。	60201	1	1～9
2016	2	10 ～ 11	林道の災害復旧工事の法面吹き付け工事が終了し、被災者は完成検査を受けるための準備として法頭付近（高さ約43m）で巻尺を垂らす作業を行った。被災者は、検査が行われるまで待機している際に墜落し、死亡した。	30108	1	10～ 29
2016	2	11 ～ 12	ダムの取付け道路工事現場において、法面（高さ9.5m）掘削用に設けられた防護柵（高さ3m）の解体作業中、法面が、高さ15m、幅20m、奥行き10mにわたって崩壊したため、作業員3名のうち、1名が生き埋めとなり被災した。	30106	5	10～ 29
2016	2	12 ～ 13	登山道の標高1750～1800m付近の調査地点で同僚と2名で積雪調査を実施後、登山道を下山中、標高1750m付近（積雪数cm）においてバランスを崩し、斜面の露岩地へ転落した。転落の約4時間後に消防防災ヘリにより救助されたが、搬送先の病院にて死亡が確認された。	120109	1	1～9
2016	2	16 ～	林道の路肩の崩壊箇所を補修するに際し、土のうを設置後、ドラグ・ショベルを用い道路上に残っていた土砂を取り除いていたところ補修箇所を含む路肩が崩壊し、ドラグ・ショベルが約13.5メートル下の河原に転落、被災者は車外	30108	5	1～9

		17	に投げ出され頭部を打撲し死亡した。			
2016	1	15 ～ 16	被災者は、切羽付近で、ドリルジャンボのバケットに乗り、導爆線を束ねて同僚に手渡した後、切羽面に沿って移動中、切羽面から岩塊（約500kg）が肌落ちし、バケット内の被災者の背中に岩塊が当たって死亡した。	30102	5	10～ 29
2016	1	13 ～ 14	花粉対策事業における伐採作業現場において、機械集材装置を用いて、伐採した原木の運材作業を行っていたところ、斜面の上方で原木の玉掛け作業を行っていた作業員が倒れているところを発見された。ただちに救急搬送されるも、搬送先の病院で死亡した。	60201	2	1～9
2016	1	13 ～ 14	被災者は斜面下方において斜面に堆積させていた土砂をドラグショベルを使用してダンプに積み込む作業を行っていたが、その斜面の土砂が突然崩れて、被災者の乗っていたドラグショベルと土砂を積み込んでいたダンプが崩れた土砂により横倒しとなり、ドラグショベルは土砂に埋まった。ダンプの運転手は自力で脱出して負傷はなかったが、ドラグショベルの運転手は約2時間半後に救出されたものの死亡していた。	30106	5	10～ 29
2017	12	14 ～ 15	急傾斜地（高さ約10m。当該場所には約30年前にモルタルが吹き付けられていた。）の崩壊対策工事現場において、被災者は、ピックを用いて高さ約1.5mの当該モルタルのはぎ取り作業に従事していたところ、そばのオーバハングのため残しておいたモルタル部分（高さ約3m、幅約2m）が崩壊し、被災した。	30199	5	1～9
2017	11	12 ～ 13	新規開設した道路の路面を計画の高さまで掘り下げるため、被災者がブレーカを運転して路面の岩を砕き、その後方で現場代理人がドラグショベルを運転して砕いた岩を後方へ移動させる作業を行っていたところ、ブレーカの運転席側の法面（高さ約20m、全長約20m、勾配約5分）が上方から崩落、被災者はブレーカに搭乗したまま土砂の生き埋めとなり、約10時間後に救出されたが、死亡した。	30106	5	10～ 29
2017	11	14 ～ 15	当該工事は、落石防止用ネットの張り替え工事である。被災者は同工事の下請け労働者として他の労働者ととも現場へ入場し、当日は他の労働者と離れて法面上の落石防止用ネットの支柱のモルタルを詰める作業を行った後、さらに上方にある親綱の結束部を外そうとした際に法面から転落した。	30199	1	1～9

2017	11	4 ～ 5	道路に下水道のマンホール及び管を設置する工事現場で、作業員2名が、幅1.1メートル、延長2.2メートル、深さ3.6メートルの掘削箇所の中で管の接続作業をしていたところ、掘削側面の土砂が崩壊し、土砂の下敷きとなり、作業員1名が死亡した。	30110	5	1～9
2017	10	16 ～ 17	被災者は、下水道工事現場において、掘削した溝（深さ約2.2メートル）の中で、敷設された管の位置を確認する作業を行っていたところ、土壁が崩壊し、生き埋めとなり死亡した。	30106	5	10～ 29
2017	10	8 ～ 9	個人住宅敷地内の樹木剪定作業において、被災者は三脚脚立（天板の高さ2m45cm）を使用して、サルスベリの剪定作業を行っていた。その後被災者が耳から血を流して倒れているところを他の作業員に発見され、被災者はその後搬送先の病院にて脳挫傷により死亡した。	30199	1	10～ 29
2017	9	12 ～ 13	下水道管を付設する工事において、掘削溝の幅95センチメートル、長さ約2メートル、深さ約2.3メートルの土止め支保工が設置されていない箇所で作業員が下水道管の下側に砂利を敷き詰める作業に従事したところ、地山が崩壊し、死亡した。	30110	5	1～9
2017	9	16 ～ 17	人工林の生育状況等調査のため、午後1時半頃、被災者ほか3名で林道終点から徒歩で山林に入り、午後2時頃から、被災者単独で人工林と天然林の境界調査を行っていたが、下山予定時刻の当日午後5時になっても下山せず、翌朝7時30分頃、傾斜50度～60度の崖下の沢のほとりで、心肺停止の状態で座り込んだ状態で発見され、搬送先で死亡が確認された。	170209	1	1～9
2017	8	10 ～ 11	被災者は、線路沿いにある電柱の電線にプロテクターを設置する工事の警備を行うのに、同僚警備員1名とともに、工事作業員4名に随行し、最後尾で工事場所へ向かって山中を徒歩で移動中、同人が運搬していた工事用の資材等が谷側に落ちたため、同資材を取りに行こうとして谷へ墜落した。	170201	1	10～ 29
2017	7	12 ～	被災者は、機械集材機の荷かけ作業を行っていたところ転倒し、腰ベルトから紐で下げていたチェーンソー用プラグソケットレンチのマイナスドライバー部分が左大腿部に突き刺さったと推定される。同僚の労働者が、被災者に無線で連	60201	2	1～9

		13	絡がとれないため、様子を見に行ったところ、あぐらをかくような状態で座り込み、呼吸、意識がなく、左大腿部から多量の出血がある状態で被災者は発見された。			
2017	7	18 ～ 19	宅地造成工事現場において、マンホール・管の設置作業中、型枠にコンクリートを流し入れたところ、型枠が開き、壊れる危険が生じた。そのため、被災者と現場の副責任者の2名で型枠の補強を行うべく、掘削した箇所に進入したところ、側面の土砂が崩壊し被災者に降り掛かり生き埋め状態となり、翌日に死亡した。	30109	5	10～ 29
2017	7	16 ～ 17	災害発生場所において、ベンチカットで採石していた岩の法面下部で、被災者はクローラードリルを運転し、発破のための穿孔作業を行っていたところ、作業箇所上部の岩が崩壊し、被災者がクローラードリルごと埋まった。山から下りてこないことを不審に思った同僚が現場に見に行き、16時50分頃、災害を発見した。	20201	5	1～9
2017	7	12 ～ 13	島内12箇所の河川及び沢の維持工事（河川等両岸の管理用通路及び河川等の流路内の除草、枯損木伐採、倒木処理）において、流路内の除草等した草木等を搬出するため、車両系建設機械（つかみ機）を用いて搬出中、流路の段差2.5mを当該草木等を用いて斜路を形成し下降していたところ、斜路が崩壊して、運転していた建機とともに転落し、流路内の側壁と建機との間にはさまれ死亡した。	30199	1	50～ 99
2017	6	10 ～ 11	川床から高さ約3.5mまで勾配65度（護岸下部）、その上から高さ約2.7mの最上部まで勾配35度（護岸上部）に整形された河川の護岸工事で、護岸上部に芝を張る作業に従事していた被災者が、傾斜地での足掛かりとするための設備を設置しようとしていたところ川床まで墜落した。	30107	1	1～9
2017	5	14 ～ 15	法面補修工事のため法面頂部への仮設通路を設置していたところ、上方から落石（重さ約300kg）が発生し、仮設通路上で床材等を取り付けていた被災者に激突、もしくは、被災者がこの落石を避けようとして仮設通路から約30m下の沢に墜落した。なお、被災者は、安全帯を使用していなかった。また、落石が発生した付近で作業していた同僚作業員も斜面を滑落し、負傷した。	30199	4	10～ 29
2017	5	10	道路の改良工事において、工事の進捗状況を確認するために測量を行っていたところ、作業床から2.2m崖下に墜落し、死亡した。足場は組まれていたが、測量のため足場の外へ出て作業しており、安全帯は着用していたが、使用して	30105	1	1～9

		11	いなかった。			
2017	1	20 ～ 21	トンネル工事現場の終点側の切羽において、発破作業のためドリルジャンボにより穿孔作業後、被災者は火薬の装薬作業のため、ドリルジャンボのマンゲージに上がり装薬箇所へ移動中、鏡面全体の約3/4が崩落（高さ7.9m、奥行き約0.5m、玄武岩の推定崩落量32立方メートル）し、マンゲージごと岩塊の下敷きとなった。なお、鏡吹付け、切羽監視責任者による常時監視は行われていた。	30102	5	50～ 99
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレイカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	30109	5	10～ 29
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレイカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	30109	5	10～ 29
2018	12	8 ～ 9	被災者は、傾斜45度の地山で立木に安全標識を取り付けようとして足を滑らせ、地山を約50メートル転落した。	30108	1	30～ 49
2018	10	12 ～ 13	被災者は、機体重量1.3tのドラグショベルを使用し、民家裏で土砂の搬出作業を行っていたところ、高さ約3メートルの法面の小段（犬走り）よりドラグショベルが転落。被災者はドラグショベルと共に法面を転落し、ドラグショベルの下敷きとなり死亡した。災害発生時、被災者は単独で作業を行っており、事故が発生した瞬間を目撃した者はいない。	30108	1	10～ 29
2018	10	16 ～ 17	既存する橋梁の耐震補強設計を行うため、清掃・点検作業を3名で行っていた。橋台付近に親綱を設置し、被災者を除く2名が準備等のため一旦現場から離れた。その後、1名が現場に戻ってくる途中で、橋台付近から約20m下の河川に倒れている被災者を発見したもの。	170209	1	1～9

2018	10	12 ～ 13	市道脇の斜面上にて、台風による倒木の撤去作業のため、被災者はクレーン車で支えられた立木をチェーンソーで伐倒する作業を行っていたが、立木の伐倒後、伐倒木から離れた場所で待機していたところ、待機場所上方の幅2.5メートル、高さ5メートルの斜面の土砂が崩壊し、生き埋めになったもの。被災者は救出されたが、現場で死亡が確認された。	30199	5	1～9
2018	9	18 ～ 19	台風の影響により養鶏場に水が入ったため、養鶏場の修理、確認作業等を行った被災者が養鶏場から自宅へ被災者が運転する車により直帰する途中に、台風による大雨の影響により、陥没していた農道から転落し死亡したもの。	10101	1	100 ～ 299
2018	9	16 ～ 17	深さ2.0メートルの掘削溝にハンドホール（コンクリート構造物）を敷設している際、掘削溝底面で作業を行っていた被災者の背後の法面が崩壊し、被災者は両膝付近まで土砂に埋没するとともに、崩壊した土砂の土圧によって前傾姿勢となり、腹部をハンドホールに強打したもの。	30301	5	1～9
2018	9	10 ～ 11	法面保護工事中の斜面にて、モルタル吹付工事前の養生作業をロープ高所作業で行っていたところ、高さ約12.3m（斜長約16m）の法面から、墜落して、頭を強く打って死亡した。	30199	1	30～ 49
2018	9	14 ～ 15	採石場内において、被災者は階段採掘法で切られた地山の4段目ベンチ上でドラグショベル（機体重量48t）を運転していたところ、4段目ベンチが崩落しドラグショベルごと82m下のヤードに転落したもの。	20201	1	10～ 29
2018	9	10 ～ 11	山の標高600m付近において山林の地籍調査を5人体制で実施していた。境界点の杭打ち作業が終わり、次の境界点へのルートを班長が選定中、被災者が別方向に移動した際、転落したもの。およそ30mにわたり転落し、外傷性くも膜下出血により死亡したもの。	60209	1	30～ 49
2018	9	12 ～	間伐作業現場において、昼休憩のため作業現場から土場へ移動したが、被災者が戻ってこなかった。声かけを行ったが、応答がなかったため、被災者の様子を確認しにいったところ、斜面上でうずくまっている被災者を発見した。その	60201	2	30～

		13	際、被災者は脇腹の痛みをうったえていた。その後、被災者は搬送先の病院において、急性出血ショックにより死亡した。			49
2018	8	12 ～ 13	斜面（高さ約130m、勾配約40～45度）において、浮石等の危険性の調査のため、同僚と2名で実地踏査を行っていた。その際、斜面下部からジグザグに登り、浮石等の確認をしていたところ、高さ約100mの地点で足を滑らせ、約20m滑落した。被災直後は意識はあったが、その後、重症胸部外傷で死亡した。	170209	1	50～ 99
2018	8	14 ～ 15	被災者は同僚2名と山の法面から落石を防止するためのモルタル擁壁修繕工事を行っていた。作業は、既存のモルタル擁壁を剥して内部の土と併せて下方に落とすものでセーフティクライマー工法を用いていた。3名は、次の作業エリアに移るためワイヤロープを付け替える樹木を選定していたところ、上から石（直径約15cm）が落ちてきて被災者の左側頭部に当たり、その衝撃で法面から約15m下に墜落し全身を強く打って死亡した。	30199	1	1～9
2018	7	10 ～ 11	林道建設工事において、被災者は、法面（法勾配約55°×法長約6m+約法勾配45°×法長約14m）の頂上部で草刈り作業をしていた。下方で作業していた同僚が、法面下の林道に倒れていた被災者を発見した。被災者は首を骨折する等外傷があった。	30199	1	10～ 29
2018	7	8 ～ 9	河川の護岸工事において、盛土の上に大型土のう（約1.4トン）を置き、仮締切りした箇所に、2台目の水中ポンプを設置していたところ、大型土のうの下の盛土が崩れ、土のうの上で作業を行っていた被災者が土のうと一緒に落ち、土のうとの間に挟まれたもの。	30107	5	30～ 49
2018	7	4 ～ 5	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	5	300 ～ 499
2018	7	4 ～ 5	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	5	300 ～ 499

2018	7	20 ～ 21	業務が終了し、取締役事業長の指示により、被災者は自動車と同僚を自宅に送る際、豪雨災害による土砂崩れに同僚とも巻き込まれ、被災し死亡したものの。	11502	5	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	林道の新設工事において、伐採した木の搬出作業のためドラグショベルを運転していたところ、ドラグショベルの下の路肩が崩壊し、ドラグショベルごと約35メートル下にある旧国道に墜落したものの。病院に救急搬送され、死亡が確認された。	30106	1	1～9
2018	6	8 ～ 9	汚水配管設置のための掘削（約H：1.8m×L：5m×W：1.4m）作業終了後、土止め支保工の矢板設置のため掘削箇所に入り、スコップで整地していたところ、掘削法面が崩壊して被災者の腰まで土砂で埋もれ、病院で死亡したものの。	30110	5	10～ 29
2018	5	10 ～ 11	新設鉄塔の基礎工事における災害である。地山掘削、基礎の打設・養生が終了したため、周囲のライナープレートを撤去する作業をしていた。プレート同士をつなぐ48本のボルトのうち2本がライナーに押されて外れず、プレートを吊る4本のワイヤーの張力の偏りを修正するため、バケットを斜め上方に微動させた。直後に土圧でライナープレートが動き、土砂がライナープレートの下部から流入して肩まで土砂に埋まった。	30301	5	10～ 29
2018	4	14 ～ 15	町道の災害復旧工事を行っていた作業者が道路から約10m下の斜面に転落し死亡したものの。	30106	1	1～9
2018	3	16 ～ 17	市発注の下水道工事（L＝600m）において、民家へ引き込むための取出し管（事前に本管に取付けていた）周辺の掘削（最深部でH＝1.7m）を行っていたところ、手掘りをするため掘削溝内に入った際、突然、碎石・土砂（H＝0.8m×W0.5m）が崩壊し、被災者の首付近に直撃した。崩壊した碎石・土砂は、上部40cmが碎石であった。	30110	5	1～9
		12	被災者は、旧水路と新設水路の接続用の鉄筋を差し込む箇所に目印を付すため、全長約35m、深さ約2.5mで掘削			

2018	1	13	完了後一定期間が経過した掘削部に立ち入っていたところ、掘削法面の一部が崩壊し、生き埋めになった。その後、救急隊により病院に搬送されたが、死亡した。掘削箇所の土質は、その他の地山で、掘削面のこう配は、約70度であった。	30199	5	1～9
2018	1	13	災害発生当日、被災者を含む3名は森林の面積測量を行っていた。昼食休憩時に被災者が「日なたに行きたい」と言い、作業員2名と別れた。約15分後、作業を開始しようとした被災者に呼びかけたところ返事が無かった。付近を探したところ、約50m下に滑落した被災者を発見した。被災者はヘリコプターで搬送された病院先で死亡が確認された。	60209	1	1～9
2019	12	14	下水道工事現場の掘削溝内（幅0.95m、深さ1.6m）で土止め支保工の軽量鋼矢板の設置準備のため、被災者と同僚1人が溝内に降りて準備しているところに、側壁が崩落（高さ1m、幅2.8m、奥行き0.73m程度）し、被災者の身体全体が崩落土砂に埋もれたもの。	30110	5	1～9
2019	11	14	共同住宅建設現場における建物基礎部の地山掘削作業に関連し、幅約150cm、深さ約180cmである掘削底においてケレン棒を使用して土止め壁に付着した土砂の除去作業を行っていたところ、背後の地山が長さ約2m30cmにわたり崩壊し、腰部まで埋まったもの。	30201	5	1～9
2019	11	16	被災者は、事務所の観測所の定期の保守点検を行うため、同僚2名と川沿を徒歩で1列縦隊となって移動していた。そして、観測所のある左岸側の沢まで到達し、その沢を先に同僚2名が登りきり、最後に被災者がそこを登っていたところ、沢が崩壊し、落下してきた岩（大きさ約1m～2mで2個と推定）に体を挟まれたもの。	80209	5	30～49
2019	10	14	山砂採取場にて、斜面高さ60メートル上部で掘削して下方に落とすことにより堆積した山砂をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込んでいたところ、斜面上に堆積していた山砂が崩壊してドラグ・ショベルとダンプトラックが埋まり、ドラグ・ショベルの運転手が死亡した。	20202	5	10～29
2019	10	16	法面工事現場において、アンカー削孔用機械を移設するため、機械を固定していたワイヤーロープ・チェーンブロック等の取り外し作業に従事していたところ、機械から法面下方側の固定ワイヤーロープからチェーンブロック等を取り外した後、何らかの事由によりバランスを崩して法長約31m下方（平均勾配58°）の斜面を墜落した。病院へ搬送	30108	1	10～29

			後、翌日の午前に死亡した。			
2019	10	14	管水路工事現場において掘削構内でのマンホール据え付け作業中に法面の一部が肌落ちし、労働者の下半身が埋まって被災したもの。被災労働者は被災当初左脛部の複雑骨折、骨盤の骨折の症状であったが集中治療室に入っており、容態が急変した結果死亡したもの。	30199	5	10～ 29
2019	10	12 14	井戸掘削のため、直径15cm深さ150mのボーリング予定のうち75mまで掘削したところで、地中に入れたボーリングロッドを一旦引き抜いてレールに搬出し休憩に入ろうとした。その時、ボーリングマシンを設置していた箇所の約5m四方の地盤が4m程真下に陥没したため、作業員2名と事業主が、地盤とともに落下して土砂に埋もれ、作業員1名の窒息による死亡が約1時間半後に確認された。	30199	5	1～9
2019	10	8 10	道路脇の法面上部の斜面で破碎した岩石を法面から道路上に下ろす作業を行い、同僚に休憩することを告げ、当該法面上部の斜面で休憩していたところ、高さ約10メートル下の道路に墜落し、同日脳挫傷により死亡したもの。	30199	1	1～9
2019	10	8 10	河川の護岸工事現場において、台風通過後に現場の状況を確認するために、現場内の仮設工事用道路を車で走行していたところ、増水により崩壊・陥没した仮設工事用道路から車ごと河川に落下したもの。	30107	1	30～ 49
2019	10	16 18	農業用水路配管（塩ビ管、L=5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75～78度）を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	5	10～ 29
2019	10	16 18	農業用水路配管（塩ビ管、L=5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75～78度）を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が	30110	5	10～ 29

			生き埋めとなった。			
2019	9	12 ～ 14	ロープ高所作業による法面の既設モルタル撤去作業において、法面上部箇所では浮石撤去作業をしていた際、何らかの理由で接続器具をメインロープから取り外した時、高さ約15mの地点から滑落したもの。災害発生時、被災者が身に着けていた身体保持器具は、ライフラインに接続されていなかった。	30199	1	30～ 49
2019	9	12 ～ 14	民有林の切捨て間伐の現場であり、作業の初日であった。初めて入場する際、チェーンソーを背負いかごに入れ、急傾斜地を等高線に沿って現場に向かう山道を歩行していた際、傾斜約50度の落ち葉で覆われた斜面を横切る際に足を滑らせて斜距離で約12m滑落し、直下の河床の岩で頭を強打した。被災者は、スパイク付きの靴を着用しておらず、また被災直後の被災者の保護帽は脱げていた。	60201	1	1～9
2019	8	10 ～ 12	ダムの上流で草刈り後の草の集草作業をしていたところ、被災者が斜面から墜落（6m程度）したもの。	30199	1	1～9
2019	7	10 ～ 12	道路拡幅工事の前作業として、道路脇の山林斜面の中腹（道路からの高さ約11mの所）によじ登り、チェーンソーでヒノキの立木（根元直径約60cm）を伐倒直後、斜面（転落開始地点38度、その下から、道路際の擁壁（高さ約1.5m）までの大半が42度以上の傾斜）を転落、道路に激突し死亡。	30106	1	10～ 29
2019	7	14 ～ 16	遺跡発掘調査のため、床掘りを3名で行っていた。被災者が手掘りスコップで作業を行っていたところ、掘削面（深さ約2.3m）の最大奥行き約0.9m、幅約6.3mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの。崩壊前の掘削面の勾配は目測でほぼ垂直であった。	160101	5	1000 ～ 9999
2019	6	10 ～ 12	擁壁築造のための基礎コンクリート打設を行うため、高さ約6mの地山の基底部分をドラグショベルですかし掘りしたところ崩壊し、全身が生き埋めとなったもの。	30109	5	1～9
		10				

2019	4	～ 12	事業場敷地内北西部の牛舎横において、配水管敷設のため、ドラグショベルを使用して掘削作業を行っていたところ、掘削法面（高さ2.4m）の地山が崩壊し、作業員2名が生き埋めとなったもの。そのうち1名が死亡したもの。	70101	5	1～9
2019	4	～ 10	8 排水管のレベル調整のため、床掘りを2名で行っていた。被災者がクワで作業を行っていたところ、掘削面（深さ約1.7m）の最大奥行約0.6m、幅約4.7mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの	30110	5	10～ 29
2019	3	～ 4	2 道路工事のうちトンネル工事現場において、坑口から約8.5m掘削した切羽で一次コンクリートを吹付後、上半の支保工建込準備のため、測量及び路面の整地を行っていたところ、鏡面左肩部から1回目の崩落により被災者の下半身が下敷きになり、さらに2回目の崩落が発生した。	30102	5	30～ 49
2019	3	～ 12	10 被災者は、水道管布設工事のため、深さ約1.5mの掘削した溝の中で計測作業に従事していたところ、埋設されていたコンクリート擁壁（高さ約1.05m、長さ1.17m、幅約0.51m：重量830kg）が突然倒壊し、壁との間に挟まれて死亡した。	30110	5	1～9
2019	2	～ 12	10 汚水管（直径20cm、長さ4m）を敷設するために、地山の掘削、汚水管の据え付け、埋設等、一連の作業を3人1組で行っていた。汚水管を2本目まで敷設し、地上のマンホール周辺を地固めしていたところ、被災者が掘削面（地上から1.6m）に立ち上がった瞬間にボックスカルバート付近の土砂が剥離崩壊し、土砂に埋もれ死亡に至った。	30109	5	1～9
2019	2	～ 10	8 事業場敷地内の雨水等貯留用のコンクリート製沈殿槽から隣接する同社管理の農地へ農業用水を配水するにあたり私有農道に塩ビ製配管を約150m敷設する作業中、被災者は深さ1.9m、幅0.8m、長さ約12mにわたって掘削した溝内で床均し作業等を行っていたところ、掘削溝の側壁が長さ5.8m、高さ1.8mにわたって崩壊し、埋まったもの。	11709	5	1～9
2019	1	～ 10	8 宅地造成現場において、ドラグショベルで掘削された幅約1.2m、深さ約1.9mの溝の中に入り、汚水管の設置作業を行っていたところ法面が崩壊、逃げようとしたが腰部分まで土砂で埋まり、同僚に助け出され病院に運ばれたがその後死亡したもの。	30199	5	1～9

2019	1	8 ～ 10	被災者は碎石運搬用ベルトコンベヤー駆動部のカバーの点検作業をしていたが、移動中通りがかったがげの路肩が崩れ、がけ下に約5m墜落し、入院加療していたが後日死亡したもの。	20201	1	10～ 29
2020	12	16 ～ 18	道路の除草作業が終了したので、退勤しようとして迎えに来ていた車両に移動しようとして傾斜約40度の法面を駆け上がろうとしたところ、転倒して側溝に転落し頭部を負傷し、頭部外傷により死亡したもの。	30199	2	1～9
2020	11	12 ～ 14	ずい道の拡幅等工事において、掘削面で落盤、肌落ち等が発生し、坑内で車両系建設機械（ブレイカー）を運転していた被災者の背部に落石が激突、車両系建設機械の脇で死亡している被災者が発見された（目撃者なし）。なお、坑内には、ずい道支保工が設けられておらず、また、被災者が運転していた車両系建設機械のヘッドガードは坑内が狭小であったため取り外されていた。	30102	5	50～ 99
2020	10	10 ～ 12	土砂の崩壊を防止するために1メートル四方のコンクリートブロックを7段積み上げていたが、土砂が崩壊したため、積み上げられていたコンクリートブロックが崩れ、付近にあったプレハブ小屋にコンクリートブロックが直撃し、プレハブ小屋の中で警備機器取付の作業を行っていた被災者が死亡したもの。	30301	5	10～ 29
2020	10	10 ～ 12	被災者は、同僚1名とダム堆砂量測定のため、陸上部に設置している杭の測量作業を行っていた。2名で高さ約6メートルから下方にある杭の位置を確認、同僚が昇降ロープが必要と判断し、現場付近に駐車していた車両に取りにいったところ、後方から「ドボン」という音が聞こえた。同僚がすぐに現場に戻ったところ、被災者がダム湖に墜落しており、その後溺死した。	170209	1	1～9
2020	10	8 ～ 10	地上4階地下2階複合ビル新築工事において、掘削深さ10m（縦穴状で土止め支保工済）から、さらに1.75mをドラグ・ショベル（0.1立方m）で掘削していた。予想外の湧水があり排水ポンプを設置する段取り中、横矢板下部より土砂が流出し、被災者がその土砂に埋まってしまったもの。その後、地上に引き上げ死亡が確認されたもの。	30201	5	10～ 29
			宅地造成工事において、下水管敷設のため、幅90cm深さ2m長さ14mの溝を9時からドラグショベルで掘削し、			

2020	9	10 ～ 12	11時ごろに掘削作業を終え、被災者は溝の深さを1人で測定していた。11時20分ごろドサッと音を立てて掘削面の半分以上が突然崩壊したため、別の場所に移動していた作業員らが覗いたところヘルメット以外土砂に埋もれている被災者を発見したもの。	30109	5	1～9
2020	9	20 ～ 22	被災者を含む労働者2人は、台風10号の接近による自然災害発生に備え、会社事務所で待機していた。夜、会社事務所隣りの山の斜面が崩れて、その土砂で会社事務所及び社長宅が川に流され、会社事務所で待機していた労働者2人は行方不明となった。災害発生して11日後、捜索隊により、災害発生現場から約3.4km下流の川床の土砂の中から1人が遺体で発見された。	30106	5	10～ 29
2020	8	14 ～ 16	造園事業者が山林で下草刈りの作業を行っていたところ、現場に倒れている被災者を一緒に作業していた事業主が発見し、その後、病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。伐倒した木の皮はぎ作業中に斜面（約27度）で転倒して、切り株に頭部をぶつけたものと思われる。	60101	2	1～9
2020	8	16 ～ 18	法面保護工事に伴う落雪等防止用擁壁工の築造工事において、被災者が現場横の斜面にある湧水管を確認しようと斜面に登る途中で足を滑らせ、転落した。	30199	1	1～9
2020	6	10 ～ 12	被災者が、磯（高さ5m程度）にて、釣り番組の取材のため釣り人がインダイを釣り上げている状態を撮影し、撮影場所を変更するため移動していたところ、バランスを崩し墜落した。	100101	1	1～9
2020	6	12 ～ 14	山林の測量のため労働者4名で山中に入り、午前中の測量を終えて移動。正午前に次の測量対象の山林に到達したので、昼休憩。13時前に1回目か2回目の測量を実施後、再度移動を開始したところ、被災者が滑落。同僚が、被災者を捜索したところ、最後に被災者を見た箇所から約50m下の枯れ沢で被災者を発見。発見時被災者は、脈はあったが、意識不明。レスキュー隊による救助後病院へ搬送されたが、同日死亡が確認されたもの。	60201	1	10～ 29
		10	被災者は、地山の崩壊調査のため、山林の中腹から下方に向かって斜面を下っていたところ、足を滑らせて約30m滑			

2020	5	～ 12	落し、意識がなく頭から血を流した状態で砂防堰堤上に横たわった状態で発見されたが、その後、搬送された病院で死亡が確認されたもの。	170209	1	30～ 49
2020	5	～ 12	砕石破碎プラントで作業を行っていた労働者が、当該プラントから500m程離れている採石場において、被災者が運転していた重機の動きが止まっていたこと、重機付近の採石場の法面が崩れていたことを確認したため、事務所にいた工場長へ連絡した。連絡を受けた工場長が、徒歩で採石場に向かったところ、重機のキャビンが多数の岩石に押しつぶされていた状況を確認したもの。	20201	5	1～9
2020	4	～ 20	工場内の雑排水処理用の配管設置作業において、ドラグショベルで掘削（幅1.4m長さ19.4m深さ約2.7m）後、被災者を含む2名が掘削面の下方で配管設置作業を行っていたところ、東壁面の地山（高さ2.5m×長さ2.45m×幅1.2m）が倒壊し、被災者が土砂の下敷きとなったもの。なお、もう一人の作業者は脇腹から下が埋まったが無事であった。	30110	5	1～9
2020	4	～ 10	下水道管を埋設する工事。950mm（幅）×4000mm（奥行）×1700mm（深さ）をドラグショベルで掘削した箇所で、作業員2名が土止め支保工の腹起し部材を取り付ける作業をしていたところ、背後の地山が500mm（幅）×4000mm（奥行）×1700mm（深さ）に亘って崩壊し、1名が崩壊した土砂と腹起し部材との間に挟まれて死亡した。	30110	5	10～ 29
2020	4	～ 12	伐倒木等のずり出し作業のため、被災者は伐倒木等へのワイヤロープ掛け等を斜面上で担当していたが、作業場所から退避した後、斜面下部の平面上で機械作業を行っていた作業員から被災者の姿が見えなくなり、かつ、呼びかけにも応じなかったため、作業員が斜面を上り被災者の所在を確認したところ、被災者は斜面上に設けられた退避場所で吐血して倒れていた。	60209	1	1～9
2020	3	～ 14	事業場敷地内の法面（勾配43°）において除草剤を散布していたところ、何らかの原因で転落し、死亡しているのが発見されたもの。	130201	1	30～ 49

2020	3	16	立木の枝打ち作業において、枝を吊り伐りするために地上からロープを引いていた被災者が、伐った枝が落下する重さ	60201	3	1～9
		～	で身体を約5m前方まで引っ張られ、地面に頭部を強打した。被災者は、症状固定のないまま、後日入院先の病院			
		18	で死亡した。			
2020	3	10	道路改良工事において、矢板を打ち込んでいたが石にあたったため、矢板の打ち込みができなくなり、石を確認するた	30106	5	1～9
		～	めに矢板周辺の土砂をドラグ・ショベルで約3m掘削し、現場監督が写真撮影をするため掘削した穴に入ったところ周			
		12	辺の土砂が崩れ落ち、生き埋めになり死亡した。			
2020	3	10	ケーブルクレーン用バックステーアンカー支圧版設置部の掘削が完了し、掘削後の斜面にこぼれた土砂の清掃作業をコ	30104	5	1～9
		～	ンプレッサーに接続されたエアホースで行っていたところ、被災者が作業を行っていた箇所上方の岩盤が長さ4.5			
		12	m、幅3.5mにわたり崩落し、当該岩盤の上部にあった岩石（約1m×1m、厚さ約60cm）の下敷きとなったもの。			
2020	2	14	被災者は、幅1.1m、深さ3.5mに掘削した掘削床で下水道管の埋設作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し、	30110	5	1～9
		～	崩れた土砂に埋もれ死亡した。			
		16				
2020	1	8	住宅造成工事現場において、被災者は地山を掘削した後の法面（高さ約5m）の下で、当該法面の手前に擁壁を設置す	30109	5	1～9
		～	るためにブロックを積み上げる作業をしていたところ、法面が崩壊し、被災者が土砂に埋まり死亡した。			
		10				

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_02.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html)